

資料 2

第3回 富津市道の駅整備検討委員会

整備コンセプト 「つながる富津」



令和8年5月27日

※本資料はコンセプト具体化のための整理イメージであり、すべての機能の導入を前提とするものではありません。

整備コンセプト「つながる富津」の具体化

— 何をつなぐ道の駅とするかを整理する —

「つながる富津」～地域資源を連携し、にぎわいを創る道の駅～

CONNECT：富津市と来訪者をつなぐ

道の駅は、南房総の玄関口として、都心等からの来訪者が最初と最後に立寄ることが可能な立地を活かし、富津市の自慢である地場産品や観光資源をPRすることで、本市への来訪促進に結び付けます。

LINK：市内の地域資源をつなぐ

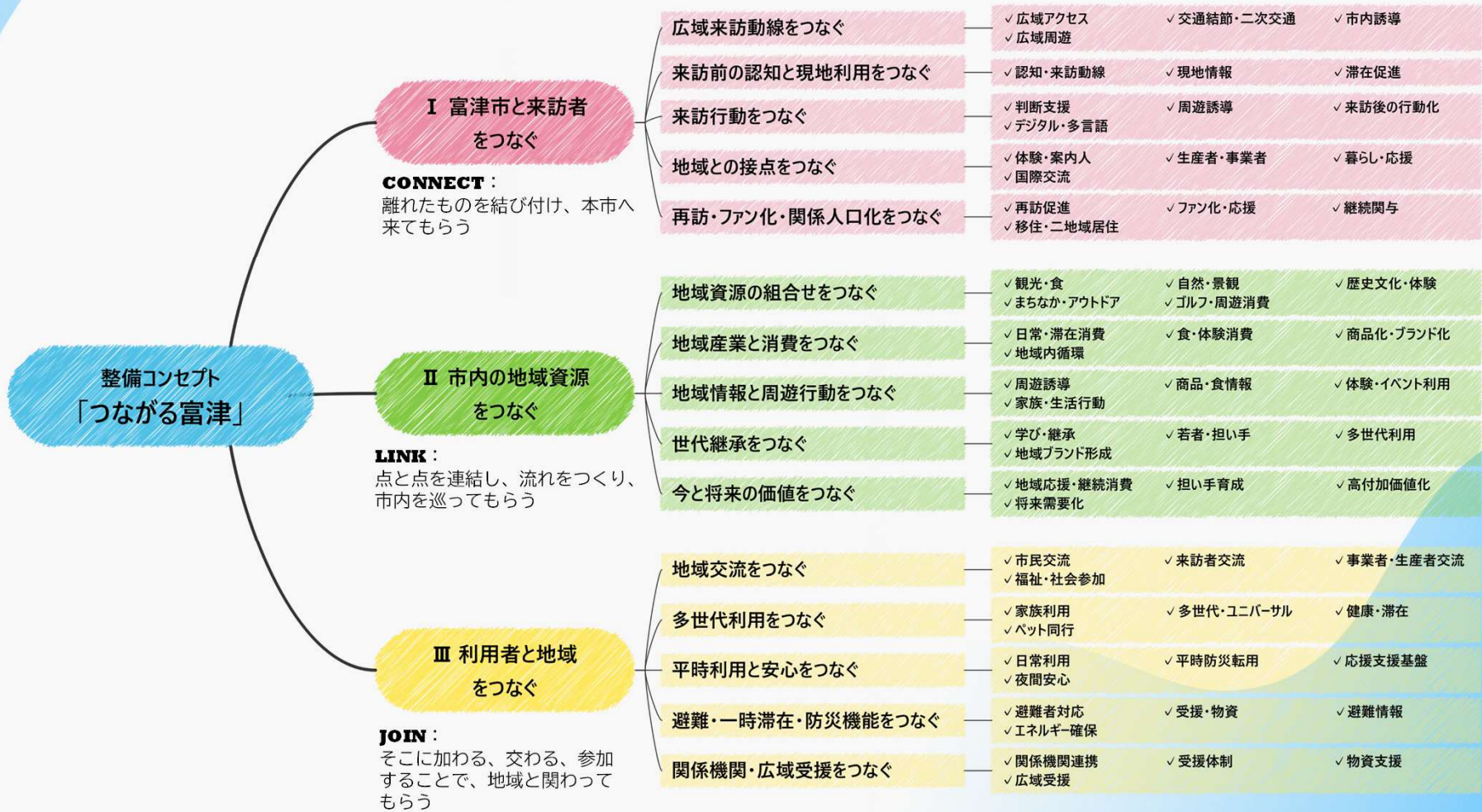
道の駅は、市内周遊の流れをつくり、何度も本市を訪れてもらう「リピーター」を増やすことで、本市への往来を活性化していきます。

JOIN：利用者と地域をつなぐ

道の駅は、交流拠点として、交流人口や関係人口の増加と地域経済の活性化を図り、地域内外の幅広い世代の人々が集い参加できる場を創出します。このほか、災害時において避難場所や災害復旧活動を行うための防災拠点として、道の駅を整備します。



「つながる富津」を3つの柱で整理する



I 富津市と来訪者をつなぐ

— ひとつを、「通過される場所」から「立ち寄る場所」、そして「また来る場所」へつなぐ —

【広域からの流れ】

富津館山自動車道、
アクアライン、圏央道、
高速道路 I C、国道、
羽田方面、成田方面、
フェリー、南房総方面



【道の駅】

休憩・飲食・買物、
情報発信、観光案内、
周遊起点となる拠点、
24時間駐車・トイレ、
Wi-Fi、EV充電



【市内周遊・再訪】

観光情報、道路情報、
地域情報を市内観光地、
地域資源、体験、飲食、
買い物へつなぐ
再訪、関係人口、移住
定住への関心へつなぐ



広域からの来訪を受け止め、市内周遊、再訪、関係人口へつなげていく

Ⅱ 市内の地域資源をつなぐ

—道の駅をハブとして、点在する地域資源を結び、周遊・消費・交流へつなげる—



道の駅を起点として、地域資源を生かし、楽しみや消費、にぎわいを広げていく

Ⅲ 利用者と地域をつなぐ

—道の駅を、観光客の施設であると同時に、市民や地域のための場としても考える—

【交流・共創】



観光客、市民、地域住民、担い手、事業者をつなぎ、交流と共創が生まれる場をつくる。

例) 交流広場、多目的スペース

【生活・健康】



子ども、家族などが安心して過ごせる環境を整え、健康づくりや日常的な利用につなげる。

例) 授乳室、バリアフリー、健康増進、遊び場

【防災・受援】



平時利用と非常時利用をつなぎ、広域避難、受援、物流を支える。

例) 防災拠点、大規模駐車、物資集積

【脱炭素・強靱化】



E V充電、蓄電・発電等により、平時の利便性向上と非常時のエネルギー確保を両立する。

例) 太陽光発電、非常用電源、エネルギー管理



交流や安心を支える場として、地域に開かれた使いやすい拠点につなげていく

「つながる富津」を踏まえた 導入機能の方向性

前のパートでは、整備コンセプト「つながる富津」について、何をつなぐ道の駅にしたいかを整理した。

次のパートでは、その「つながり」を具体化するための一例として、現時点で想定し得る導入機能を整理し、今後の検討のたたき台とする。



※本資料はコンセプト具体化のための整理イメージであり、すべての機能の導入を前提とするものではありません。

「つながり」を「導入機能」に変換する

—基本方針で整理した『つながり』を踏まえ、道の駅で想定し得る導入機能を整理する—

基本方針で整理した 「つながり」

- I 富津市と来訪者をつなぐ
- II 市内の地域資源をつなぐ
- III 利用者と地域をつなぐ

道の駅

- ◆ 情報発信
- ◆ 休憩
- ◆ 交流
- ◆ 周遊の起点
- ◆ 地域振興の拠点
- ◆ 防災

想定する主な導入機能群

- 広域案内・周遊促進
- 物販・飲食・体験
- 交流・多世代利用
- 防災・受援対応
- 柔軟運営基盤



次のスライドでは、各導入機能群の方向性をもう少し具体的に見ていく

来訪受入れ・周遊を支える導入機能

— 広域からの来訪を受け止め、市内周遊と再訪につなげる —

対応する「つながり」 = **I** 富津市と来訪者をつなぐ

来訪受入れ

富津館山自動車道、
アクアライン、圏央道、
国道、フェリー、
羽田方面、成田方面、
君津方面、南房総方面

道の駅

来訪者を迎え入れ、
案内・休憩・周遊の起点
となる拠点

市内周遊・再訪

市内の観光地、体験、
飲食、買い物、イベント
への誘導
再訪、関係人口、移住・
定住への関心へつなぐ

導入機能の例

広域案内

広域交通案内
観光案内
道路情報提供
広域連携情報

周遊促進

周遊案内
モデルコース提案
スタンプラリー
観光マップ配布

快適休憩

24時間駐車・トイレ
休憩機能
Wi-Fi
EV充電

デジタル・多言語

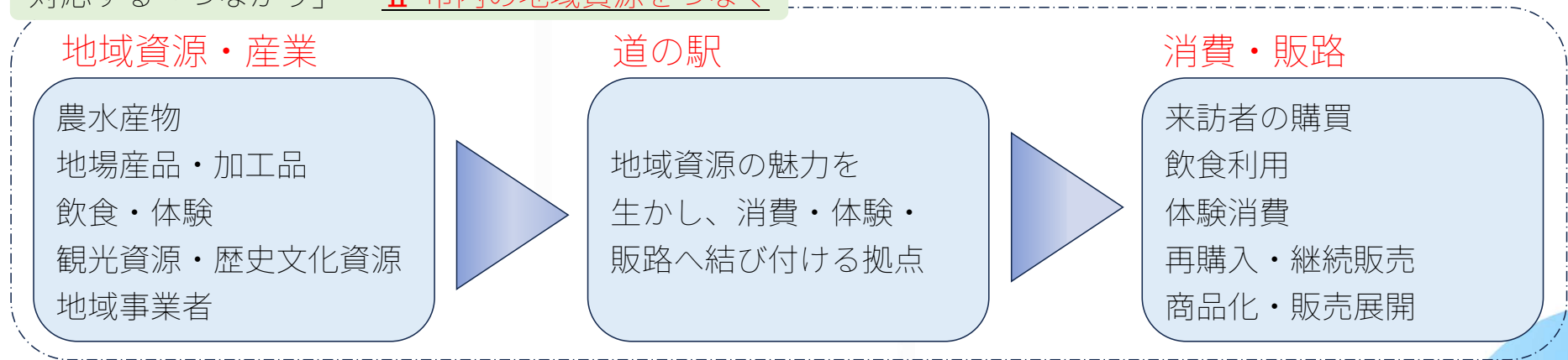
デジタルサイネージ
QR案内
多言語案内
デジタル周遊案内



食・地域産業を支える導入機能

—農林水産業、地場産品、加工、飲食、体験をつなぎ、地域で稼ぐ仕組みを支える—

対応する「つながり」 = **II 市内の地域資源をつなぐ**



導入機能の例

販売・出店

- 直売所
- 地場産品販売
- 委託販売
- マルシェ・イベント

飲食・商品化

- 地産地消メニュー
- 特産品PR
- 加工品展開
- 商品開発

体験・連携

- 体験機能
- 地域産業連携
- チャレンジ出店
- 共同PR

販路拡大・継続

- 販路拡大
- EC連携
- ふるさと納税連携
- 会員化・情報発信



交流・多世代利用・防災を支える導入機能

—観光客向け施設であると同時に、市民にも使いやすい地域拠点としての機能を支える—

対応する「つながり」 = Ⅲ 利用者と地域をつなぐ

利用者・地域のニーズ

市民・周辺住民
子ども・家族
避難者・帰宅困難者
支援機関・防災関係機関
観光客

道の駅

交流・滞在・支援の拠点
日常利用と非常時利用を
つなぐ拠点
地域振興の拠点

地域利用・安全安心

交流機会の創出
安心して滞在できる環境
防災対応
受援・物資集積
地域拠点化

導入機能の例

交流・共創

交流広場
多目的スペース
地域イベント
地域の取組紹介

多世代・健康・安心

子どもの遊び場
ベビールーム
バリアフリー
健康増進

防災・受援

防災拠点
大規模駐車
物資集積
蓄電・発電

柔軟運営基盤

可変利用スペース
管理運営スペース
バックヤード
倉庫・電源・給排水



議題2でご意見いただきたい点

本日は、整備コンセプト「つながる富津」の整理及び導入機能の方向性について、今後の候補地比較につながる観点からご意見をいただきたい。

導入機能の方向性について	候補地比較で重視すべき視点について
<ul style="list-style-type: none">✓ 特に重視すべき導入機能は何か✓ 相対的に優先度を少し下げてもよいものがあるか✓ 差別化につながる機能は何か	<ul style="list-style-type: none">✓ 候補地比較で特に重く見るべき視点は何か✓ どの観点を優先して比較すべきか✓ 共有しておくべき評価軸は何か

【本日特にお願いしたいこと】

どのような「つながり」を重視すべきか、そのためにどのような導入機能が必要か、候補地比較で何を重視すべきか、ご意見をいただきたい。

